



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/tana/>

学校教育目標 「学び合い」 「個性」 「自立」

- | | |
|--|-----|
| (1) 生きるための基本的な生活習慣・学力を身につける生徒を育てます。 | 【知】 |
| (2) 自分のまわりの人とふれあい、お互いを大切にする心を育てます。 | 【徳】 |
| (3) 自他の生命を尊重し、健康でたくましい体を育てます。 | 【体】 |
| (4) 社会の一員として自覚をもち、自分の生き方を決められる生徒を育てます。 | 【公】 |
| (5) 体験を通して自分を豊かにし、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てます。 | 【開】 |

祝 卒業

校長 井上 菜穂子

昨年の3月からの突然の学校休業に始まり、学校だけでなく世の中がどうなってしまうのだろうかという一年間でした。まだ予断を許さない時期ではありますが、皆さんがさまざまな場面で協力し、支え合い、本当はつらい思いもあった中で、「できることは何か」と考え行動してくれたことをうれしく思います。

最上級生として、例年ならば行事や部活動を通して、下級生に範を示してくれたでしょうに、活躍の場が少なく本当に申し訳ない思いです。でも、つねに変わらない笑顔がそこにあり、さまざまな制約のなかでも楽しんだり、頑張ったりする姿を心強く思っていました。

The best things are never in the past, but in the future.

(最高のものは過去にはない、未来にこそある)

以前見たNHKのドラマで卒業式のシーンがあり、外国人の校長が言ったセリフが、「ああ、自分もこれまで担任として卒業の頃に生徒に伝えてきた言葉と一緒になあ」と驚き感激したものです。

そのときの校長の言葉を主人公がさらに翻訳して、

「これから10年後、20年後に、学校時代を振り返って『ああ、あの時が一番幸せだった』と心の底から思うなら、私の教育は失敗だったと言わざるを得ない。」

「皆さんが10年先20年先に『今が一番幸せ』と感じて生きていてほしい。若いときは準備のとき、将来にこそ皆さんの最上のものがあるはず。光り輝く未来に歩いて行ってほしい。」という内容でした。主人公は独力でその後も英語を学び続け、当時の日本としては珍しい、翻訳家となったという実話に基づいています。

皆さんにはできることがたくさんあります。これからの皆さんの活躍が本当に楽しみです。どんな世の中であっても自分を見失わず、しっかりと大地を自分の足で歩いていってください。

(NHKドラマは「花子とアン」)



卒業生 別れの言葉



冬の厳しい寒さの中で、着々と蕾をつけた草木が芽吹き始める季節となり、私たちは今日卒業を迎えました。

思えば三年前の春、初めて田奈中学校の正門をくぐったときに私は、期待よりも新たな環境への不安で一杯でした。

「新しいクラスに馴染めるか、先生は怖くないか。」

そんな、新入生らしい感情が心の中に渦巻きました。しかし、日が経つにつれ、そんな心配をすぐに忘れてしまうほどの初体験がたくさんありました。初めての部活動、定期テスト、体育祭、マラソン大会、文化祭など、一年生の時はとにかく余裕がなくて、時間が早々に過ぎていきました。

上級生は「先輩」という大きな存在として何もわからなかった私たちを導いてくださり、年齢が一つ二つしか変わらないそんな先輩方を、ただただ、とても頼もしく感じました。

そんな一年生を経験して迎えた二年生。今まで呼んでばかりだった「先輩」という名で呼ばれるようになり、嬉しい反面、くすぐったい様な気持ちにもなりました。長野県での自然教室では普段はできない体験をいくつもしました。

キャンプファイヤーではクラスごとにダンスを踊ってクラスの絆を深め、夜は各部屋で遅くまでお喋りしたり、トランプやUNOをして友達との友情を育みました。見回りにいらした先生から初恋の話を伺ったのはとても良い思い出です。

文化祭の合唱コンクールでは二年目だからこそその苦しさも味わいました。初めてだった一年生の時以上に高みを目指すようになり、思いがうまく伝わらなかったり、分かり合えなくなるときもありました。でも、練習を何度も繰り返すうちに、少しずつみんなの思いが重なって本番はそれぞれのクラスの一番の歌声が体育館に響き渡りました。

秋が深まるにつれて、私たちの状況も変化していきました。

部活動や委員会で三年生が引退し、とうとう自分たちに最高学年という立場がまわってくると感じたとき、決めてもらうのではなく決断する側になったという自覚と、一つ一つが最後になる年が始まるのだと少しの寂しさが湧いてきたことを覚えています。

そして、最後の一年に向けて準備をし始めた頃、突如現れたウイルスにより緊急事態宣言が発令され、学校は長い休校期間に入りました。

最初は少し早めの春休みのような気分でした。でも休校が長引くにつれて、そのような気持ちが先の見えないことへの不安や理由のない焦りに段々と変わっていきました。

そんな休校期間が明けてもウイルスは収束せず、私たちから色々なものを奪っていきました。修学旅行、部活動の試合や大会、文化祭、遠足など様々なことが中止や縮小されていく中で、私達に残されたのは、今まであたりまえに過ごしていた些細な日常でした。



学校に来て友達や先生と話すこと、教室で授業を受けること、

あたり前に繰り返してきたそれらがどれだけ自分にとって必要、どれだけ幸せなことだったかをすごく実感し、毎日の一瞬一瞬が、とても愛おしく、かけがえのないものに変化していきました。

私たちは少し運には恵まれなかったかもしれませんが、決して不幸だったということでもありません。なぜなら、私たちは常に誰かに支えてもらっていたからです。一番身近で嬉しい時、悲しい時、いつも変わらずに支えてくれた家族。私たちが苦しくなった時、諦めかけたとき、常に最善の策を考え、最後まで一緒に道を模索し、応援し続けてくださった先生。



そして、いつもそばには、どんな失敗も笑い飛ばしてくれる友達がいました。

共に時を重ね、色々なことを分かち合ってくれる友達がいました。もちろん、叶わぬこともありましたが、三年間、私たちは一人ではなかったから、たくさんのことを叶えることができました。本当にありがとうございました。

入試が終わり卒業を目前に控えた三週間、私たちは仲間との最後の思い出づくりをしました。合唱、黒板アート、ミュージックビデオ制作。終わりを意識するようになって、言えることがあったり、言えないことがあったり、楽しければ楽しいほど妙に寂しくなったり、そんな不思議で、あたたかな時間を過ごしました。

そして今、旅立ちの時です。

今日の別れは、明日からそれぞれが新しい一歩を踏み出すためのスタートです。

この先の未来にはそれぞれの世界が広がっています。しばらく会うことのない人も居るでしょう。それでも、もしいつか会う機会があったら笑って再会できる様に、その時まで、それぞれの場所で精一杯頑張りましょう。

私たちにはそれぞれが与えられた大切な一つの命があります。精一杯生きていくことが私たちに与えられた使命であり、私たちはこのことを決して忘れずに歩いていかなければなりません。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様、そして先生方、これからも私たちの成長を見守っていただけたら幸いです。

本日はこのような式を挙げていただき、大変幸せでした。関わってくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

令和3年3月11日

卒業生代表





卒業生に贈る言葉



三月に入り、暖かい日が続くようになりました。桜の木にも小さな花が咲き始め、春の訪れを感じます。

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私が田奈中学校に入学して初めて皆さんに会ったのは、二年前の入学式の時でした。三階のフロアに上がると、新たな環境に戸惑う私たちの胸に、とても丁寧にコサージュをつけてくださいました。そのたったひとつの行動から私は、先輩たちの優しさを感じ、それまで抱えていた不安が消えていったのです。

それから二年。今年の体育祭は、例年よりも遅い十月の開催となり、時間も短縮されました。思いきり声を出せない状況では、いつものように盛り上がらないのではないかなど、心配なこともありました。しかし、先輩たちが競技をリードしたり、応援もできる限りの力を出したり、工夫をしたりして先導して下さったおかげで、思っていた以上に楽しめるものとなりました。

部活動では、入部して間もない頃から、細かく丁寧にやり方を教えてくださったり、できた時にはほめてくださったり...

私たちに、時にやさしく、時に厳しく、より上達できるようにアドバイスをしてくださいました。

だから、そんな皆さんから、二年生に進級する前に、もっとたくさん教わり、憧れの先輩に一步でも近づきたいと思っていたのに、突然の新型コロナウイルスの流行によって、できなくなってしまったことは、残念でなりません。

私自身は、二年間、生徒会本部役員として活動してきました。その中で強く感じたことは、いろいろなことを教えてくださる先輩方がいることのありがたさです。

今年も本部に新しい一年生を迎え、自分が教える立場になって、その難しさを痛感しています。

三年間、あらゆる場面で、いつも私たちを導いてくださった先輩方にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

来年四月から私たちは、三年生になります。分からなくて困っている時は、聞けば何でもすぐに助けてくださり、優しく一つひとつを丁寧に教えてくださったりした先輩方はもういません。でも、今度は私たちが皆さんにさせていただいたことを思い出し、皆さんのような、どんな時も優しく、一、二年生をリードできる頼れる存在になろうと思います。

先輩方は、今日、田奈中学校を卒業して新たな道を歩み始めますが、今年の困難な状況を乗り越えてきた皆さんなら、きっとどんなことも乗り越えていくことでしょう。

そんな皆さんの姿を思い浮かべながら、私たちは田奈中学校で頑張っていこうと思います。時間があったら、またぜひ田奈中学校に遊びに来てください。

三年生の皆様のご健康とご活躍を心からお祈りし、おくる言葉とさせていただきます。

令和3年3月11日

在校生代表